

日本教育新聞の書評（平成27年9月21日発行）

（本記事の著作権は日本教育新聞社に帰属し、記事・画像等の無断転載をお断りします）

分子生物学者、小学校長になる！ 朝礼と学校だよりで伝えなかったこと 飯田 秀利 著

考える楽しさなど易しく説く

東京学芸大学教育学部生命科学分野教授である著者が、平成22年から4年間、同大学附属小金井小学校の校長を併任した際、朝礼での講話や、ホームページなどに掲載した「学校だより」を基に一冊にまとめたのが本書である。

発信したメッセージを小学生、保護者、教員と教育実習生—と対象別に整理し直し、全3章で構成した。

理系研究者らしい発想での講話などは、一般的な校長講話とは、ひと味違うものとして読み応えもある。

例えば、小学生に向けては「教科書にも載っていないことを考えることの楽しさ」を伝えるため、「カエデの葉は赤くなって何の得があるの?」と問い掛ける。「実は、この答えは科学者もわかりません」とした上で、著者自身の推論を述べ、「誰も思いつかなかった素晴らしい答え」探しの楽しさを語る。

教員、教育実習生らには「求め、つなげ、学ぶ子」ではなく、なぜ「求め合い、つなげ合い、学び合う子」なのかと問う。

ノーベル賞を引き合いに出し、受賞は受賞者個人の営みだけではなく「何年にもわたり延べ何十人もの人と『求め合い、つなげ合い、学び合う』ことでノーベル賞までたどり着く」と、学び「合う」などの経験が、やがて社会貢献できる人材を生み出す原動力になると、今の教育の根幹として必要なものを平易に示して、考えさせられる。



東京学芸大学出版会
1296円
☎042・329・7797